
調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2009年 10月 30日

北海道立函館水産試験場 (0138-57-5998)

○2009年10月15日～22日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。

調査結果速報は、下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は沖合域に多く、漁場となる沿岸域では少なかった。
- 魚群の分布深度はおよそ150～450mで、分布の中心は300～400mに見られた。
- 計量魚探による魚群反応量は、昨年同期を上回った。
- すけとうだら延縄漁場周辺の水温は、昨年より低く、2006年並みであった。

● スケトウダラ魚群の分布

・ 水平分布(図1, 図2)

昨年と同様に、スケトウダラは主に奥尻島の東側、松前小島堆、奥尻島の南側(奥尻堆)などの沖合域に分布が多く見られ、延縄漁場となる沿岸域では少なくなっていました。

・ 鉛直分布(図3)

スケトウダラの分布は、およそ水深150～450mに見られました。また、分布の中心は概ね水深300～400mに見られました。

● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚群反応量(図2)

計量魚探によるスケトウダラの魚群反応量は、昨年(2008年)を約3割上回りましたが、一昨年(2007年)よりは少なくなっていました。

● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

スケトウダラ漁場周辺で行ったトロール調査では、32～46cmスケトウダラが漁獲され、例年漁獲の少ない35cm以下の個体も漁獲されました。ただし、サンプル数が少ないため、これがこの海域の魚体組成を反映しているかは不明です。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国沖で水温の観測を行いました。各調査点とも、今年の水温は昨年(2008年)より低く、2006年並みでした。特に、水深200m以浅で昨年との水温差が大きく、2～4℃低くなっていました。

● 漁況の見通し

計量魚探による魚群反応量が増加したことから、漁獲量は昨年を上回ると考えられます。しかし、トロール調査でも漁獲された35cm以下のスケトウダラは漁獲対象にならないことも考えられ、その場合、漁獲量は昨年並みにとどまる可能性もあります。

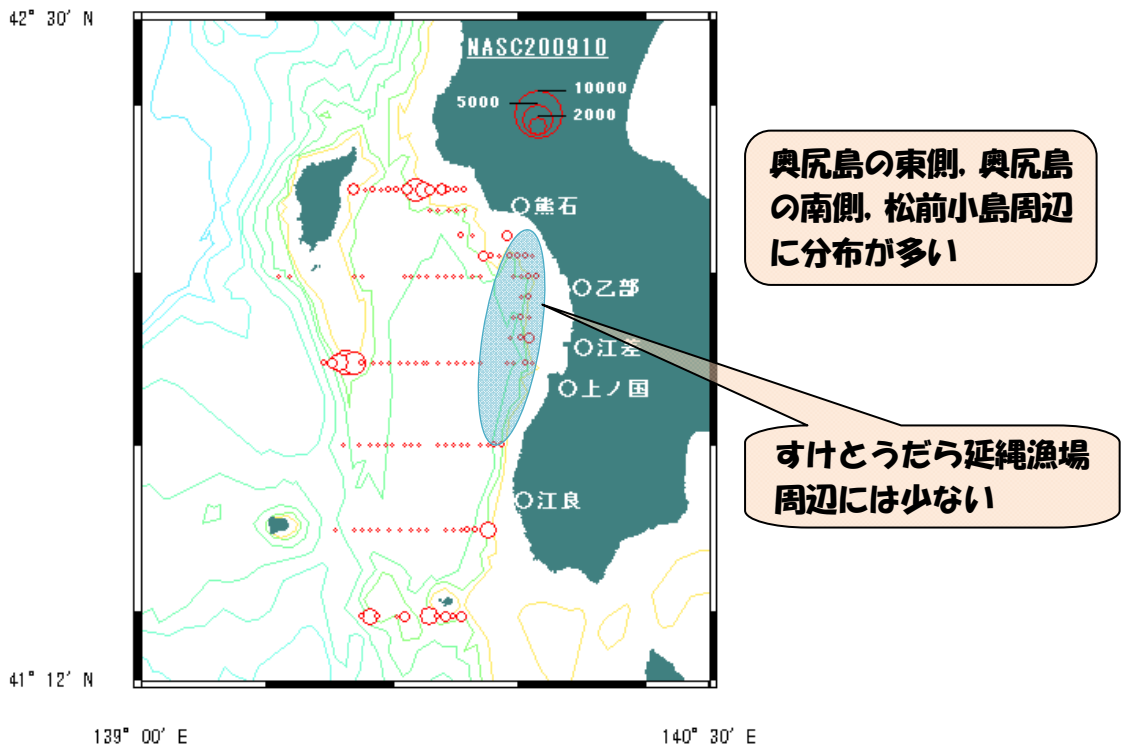


図1 調査海域全体の魚群の水平分布(2009年10月)

○の大きさが魚群反応量 (S_A) を示す

● : すけとうだら延縄漁場

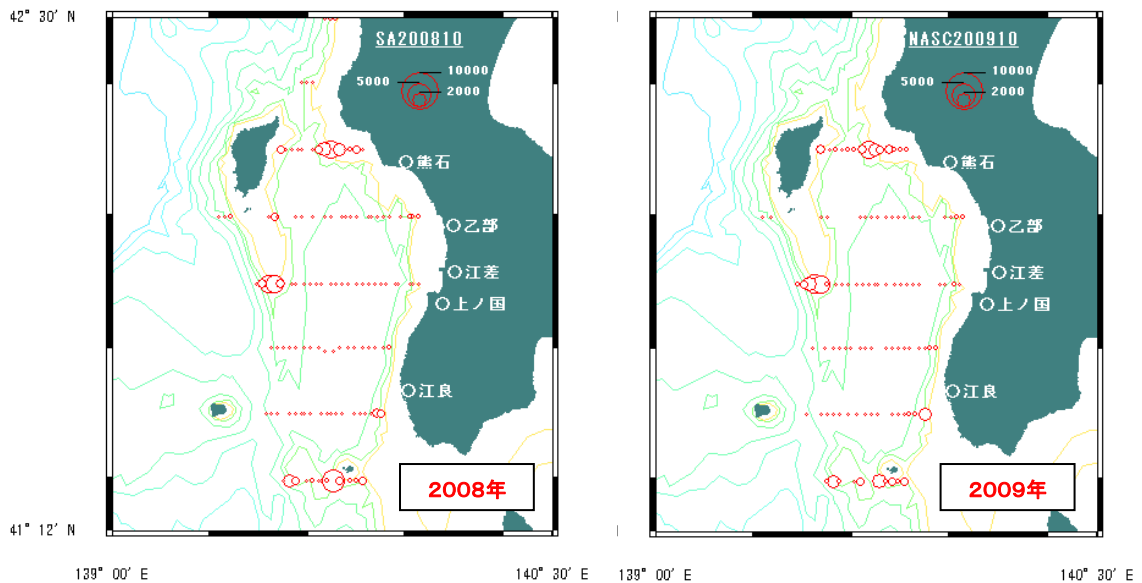


図2 魚群の水平分布(左:2008年10月,右:2009年10月)

○の大きさが魚群反応量を示す

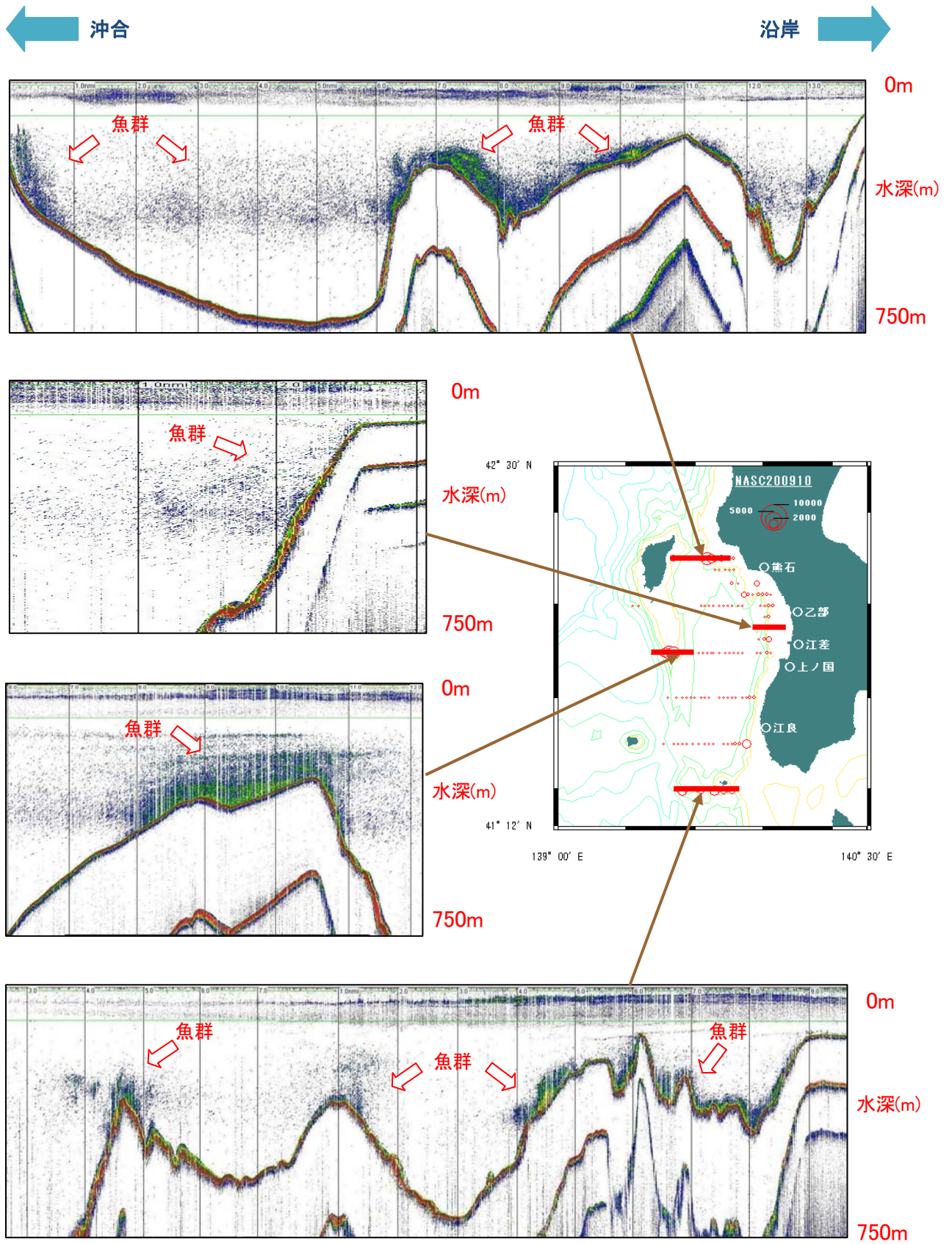


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)

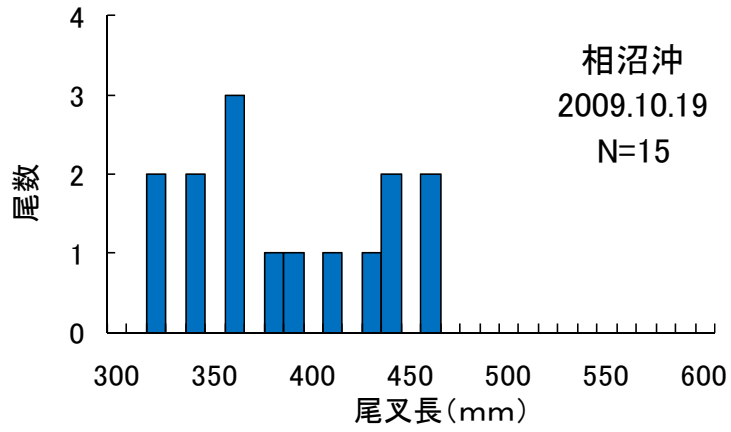


図4 トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ

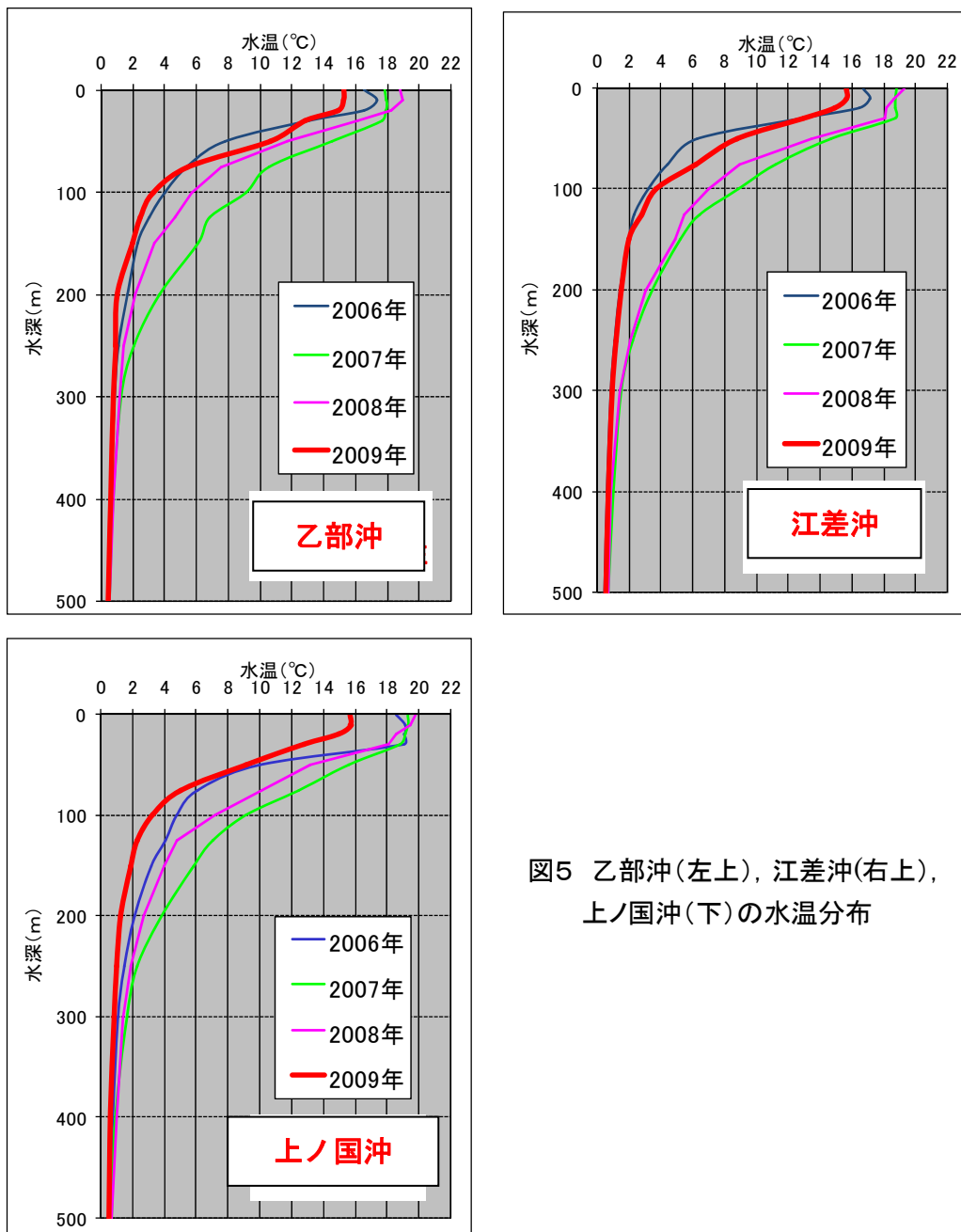


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国沖(下)の水温分布